

自己評価報告書(最終報告)

報告者

社会系コース／梅津 正美

■平成24年度の目標に対する自己点検・評価

I. 学長の定める重点目標

I-1. 科研費申請に向けた計画等

国立大学法人運営費交付金は年々削減され、教員の研究費配分も厳しくなっており、教員各自が研究のための外部資金を獲得しなければならない状況である。そこで、科研費申請に向けて、あなたが考えているテーマと計画等について示してほしい。

1. 目標・計画

・本年度は、すでに採択された2つの科研費受領研究(研究分担者)と連合大学院共同研究プロジェクトN(研究代表者)をまずは着実に推進することに力を尽くしたい。
・新規の科研のエントリーについては、本学教科教育担当教員の共同研究として取り組んでいる「教員養成大学における初年次教育プログラムの構想と展開」を実際のエントリーに結びつけていけるよう環境を整えていきたい。

2. 点検・評価

○科研課題「小・中学生の社会的思考力・判断力の発達に基づく社会科モデル授業の開発」について、次の2編の論文により成果を発表した。
・梅津正美・加藤寿朗他著「中学生の社会的思考力・判断力の発達に関する研究(Ⅰ)－歴史的分野を事例とした調査を通して－」『鳴門教育大学研究紀要』第28巻, 2013年3月
・加藤寿朗・梅津正美他著「中学生の社会的思考力・判断力の発達に関する研究(Ⅱ)－公民的分野を事例とした調査を通して－」『島根大学教育学部紀要』第46巻, 2012年12月
○平成24年度採択の連合大学院共同研究プロジェクトN「社会科授業研究における教育実践学的方法論の構築と展開」については、チームリーダーとして本年度3回の研究会議を主催するとともに、1年目の成果を公開国際セミナーにより発表した(2013年3月23日, 大阪中之島センター)。

I-2. 大学院学生定員の充足に向けた取り組み

専攻・コースのこれまでの大学院学生定員の充足状況を踏まえた上で、あなたは定員充足のためにどのような取り組みを行うか、具体的に示してほしい。

1. 目標・計画

・集中講義を担当している広島大学・高知大学の学部生に対して、本学大学院の広報を行う。
・教育支援アドバイザー、教員研修講座、県及び郡市の授業研究会等における講演の機会を通じて、現職教員に対して本学大学院の広報を行う。
・学会参加の機会を通じて、他大学教員に本学大学院への指導学生の入学を促していただくよう依頼する。

2. 点検・評価

・集中講義を担当している広島大学・高知大学の学部生に対して、課程の構成とカリキュラム内容について説明した。
・教員研修会において教育支援アドバイザーとして5回の講演を行った。その機会を通じて、現職教員に対して本学大学院の説明を行った。
・学会参加の機会を通じて、広島経済大学・田中泉教授と面談し、本学大学院への指導学生の入学を促していただくよう依頼した。その結果、平成25年度に1名の学生が入学した。

II. 分野別

II-1. 教育・学生生活支援

1. 目標・計画

・コア・カリキュラムを基盤にした教員養成教育プログラムの構想と実践に取り組み、学生の教育実践力の向上を支援する。
・教員養成の目的にふさわしい到達目標と作業課題を明確にした授業を構想・実践するとともに、それと結んだ適正な成績評価を実施する。
・教員採用試験に応じた授業カンファレンスや小論文指導を計画的に実施する。
・卒業論文・修士論文・博士論文の指導に関して、学生の興味・関心を生かしながら、質の高い論文を完成できるように細かい指導・支援を行う。

2. 点検・評価

・後期開設科目の「初等中等教科教育実践Ⅱ(社会)」について、「授業力評価スタンダードを活用した自己省察型授業力向上プログラム」を組み込んだ実践を行った。
・前期開設科目「初等社会」及び後期開設科目「中等社会科教育論」について、成績評価基準にもとづく筆記試験を実施した。
・ゼミ所属の学士課程2名、修士課程4名の教員採用試験受験者に対して、小論文・面接・模擬授業の指導を行った。
・ゼミ所属の学士課程2名、修士課程6名及び連合博士課程1名(副査)の学生に対して、各学位レベルの論文指導を行った。修士指導学生の4名は、修士論文の成果を、社会系教科教育学会第24回全国研究大会(2013年2月、兵庫教育大学)で発表した。また、修士指導学生2名の論文は、鳴門社会科教育学会誌『社会認識教育学研究 第28号』に審査を経て掲載された。

II-2. 研究

1. 目標・計画

・連合大学院基準に準拠した著書・論文を著す。
・国際学会あるいは全国学会で研究発表を行う。
・コア・カリキュラムを基盤にした教員養成教育プログラムの構想と実践に取り組み、その成果を論文に著す。
・連合大学院共同研究プロジェクトN(2012年度～2014年度)をチームリーダーとして推進し、本年度の成果を社会に公表し評価を受ける。
・2つの科研費受領研究を継続して推進し、本年度の成果を社会に公表し評価を受ける。

2. 点検・評価

○次の著書・論文を発表した。
・社会認識教育学会編『新社会科教育学ハンドブック』明治図書, 2012年4月, 分担執筆「第7章 社会科のアイデンティティ—社会科をなぜ「社会科」と呼ぶのか—」pp.332-339(連合大学院基準B相当)
・梅津正美・加藤寿朗他著「中学生の社会的思考力・判断力の発達に関する研究(Ⅰ)—歴史的分野を事例とした調査を通して—」『鳴門教育大学研究紀要』第28巻, 2013年3月(科研成果論文・連合大学院基準B相当)
・加藤寿朗・梅津正美他著「中学生の社会的思考力・判断力の発達に関する研究(Ⅱ)—公民的分野を事例とした調査を通して—」『島根大学教育学部紀要』第46巻, 2012年12月(科研成果論文・連合大学院基準B相当)
○第5回中日教師教育学術研究会において、「教員養成教育におけるカリキュラム・授業の構造化と焦点化—教科の授業力形成を中核目標として—」と題する発表を行った(2012年9月, 北京師範大学)。
○社会系教科教育学会第24回全国研究大会シンポジウムにおいて、基調提案として「社会科授業研究の有効性を問う」と題する発表を行った(2013年2月, 兵庫教育大学)。
○平成24年度採択の連合大学院共同研究プロジェクトN「社会科授業研究における教育実践学的方法論の構築と展開」については、チームリーダーとして本年度3回の研究会議を主催するとともに、1年目の成果を公開国際セミナーにより発表した(2013年3月23日, 大阪中之島センター)。
○平成24年度特別経費「教員養成モデルカリキュラムの発展的研究」について、カリキュラムマップ・ガイドライン研究協議会統括責任者として研究を推進し、その成果を報告書にまとめた(2013年3月)。

Ⅱ-3. 大学運営

1. 目標・計画

- ・本年度から任命された副学長(評価・外部資金担当)の任務を遂行し、大学の社会的評価が高まるような自己評価あるいは外部資金獲得の方法を検討する。
- ・予算・財務委員会委員等与えられた委員の任務を遂行する。
- ・第5回中日教師教育学術研究集会を成功に導くよう、実行委員長としての務めを果たす。
- ・大学改革に関する提言を積極的に行う。

2. 点検・評価

- ・副学長(評価・外部資金担当)として、平成23年度大学業務実績報告(文部科学省提出)の作成に参画した。また、大学評価・学位授与機構による認証評価のための「自己評価書」の作成について、執筆総括者として任務を遂行している。
- ・平成24年度特別経費に係る「教員養成モデルカリキュラムの発展的研究」について、カリキュラムマップ・ガイドライン研究協議会統括責任者として研究を推進した。
- ・教育・研究評価部会部会長、予算・財務委員会委員、総務委員会委員、教員評価基準専門部会委員、教職実践演習実行委員会委員の任務を遂行した。
- ・9月15日・16日に北京師範大学で開催された第5回中日教師教育学術研究集会に鳴門教育大学準備委員会委員長として参加し、中国側研究者との交流を深めた。

Ⅱ-4. 附属学校・社会との連携, 国際交流等

1. 目標・計画

- ・附属小・中学校の実習及び研究会に積極的に参加し、その推進を支援する。
- ・附属小・中学校との共同研究体制の構築を図り、課題を明確にした共同研究を推進する。
- ・教育支援アドバイザー、教員研修講座、県及び郡市の授業研究会等における助言・講演などを通じて、地域の教育関係機関との連携を深める。
- ・中国・韓国をはじめ諸外国の研究者・学校教員との研究交流を積極的に行う。

2. 点検・評価

- ・6月1日に開催された平成24年度鳴門教育大学附属中学校授業研究大会において、社会科分科会の指導助言者を務めた。
- ・平成24年度中に、教員研修会において教育支援アドバイザーとして5回の講演を行った。
- ・鳥根県及び岐阜県での授業力向上研修会において講演を行った。
- ・兵庫県教育委員会「世界史の中の日本(仮称)」副読本構想委員会副委員長として副読本の構成と活用について提言した。
- ・9月15日・16日に北京師範大学で開催された第5回中日教師教育学術研究集会に鳴門教育大学準備委員会委員長として参加し、中国側研究者との交流を深めた。

Ⅲ. 本学への総合的貢献(特記事項)

- ・9月15日・16日に北京師範大学で開催された第5回中日教師教育学術研究集会に鳴門教育大学準備委員会委員長として参加し、中国側研究者との交流を深めた。